

I 実践

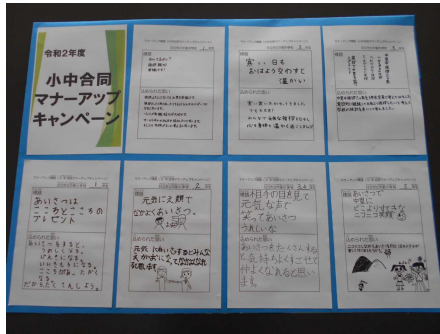
1 人権教育の目標

- (1) 生徒の人権感覚の育成を図る。
- (2) 人権課題の現状を理解し、解決に取り組む態度の育成に努める。
- (3) 地域社会との連携を通じた人権尊重の精神の向上を図る。

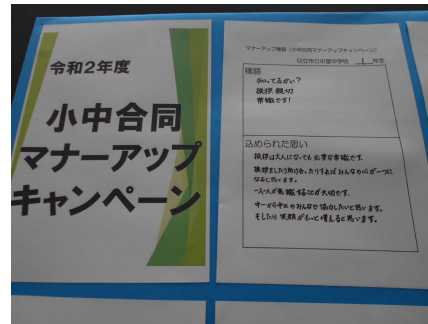
2 実践内容

(1) マナーアップキャンペーン

朝の挨拶運動が中止になった為、代わりにマナーアップキャンペーンを行った。あいさつに関する標語を小・中各学年で考え、文字やイラストでわかりやすく表現した。全員が見やすいように職員室前廊下に掲示し、挨拶に対する意識を高めた。



【あいさつ標語①】



【あいさつ標語②】

(2) マスク贈呈式（1学期）

地域の人が手作りした布マスクが贈呈された。マスク不足が続く中、手作りしたマスクを役立てて欲しいと、中里交流センター職員から手渡された。



【マスク贈呈式①】



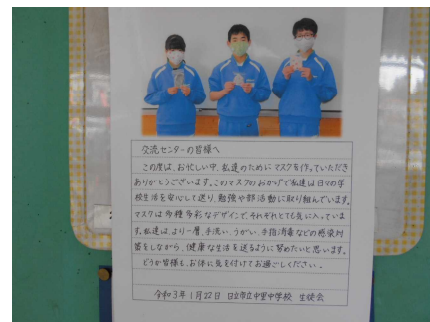
【マスク贈呈式②】

(3) 中里交流センターにお礼状（3学期）

中里交流センターから、2回目のマスク贈呈があった。生徒の健康を気遣う地域の方々に、生徒会が中心となって感謝の気持ちを伝えた。



【お礼状を手渡す様子】



【お礼状】

(4) 地域防災訓練

市役所職員，消防署職員，保護者と一緒に地域防災訓練を行った。簡易テント，段ボールベットの組み立てや，災害時に取るべき行動の話しを通じて，災害への備えの重要性や協力して助け合う事の大切さを再確認した。



【簡易テントを組み立てる様子】



【段ボールベットの組み立て】

(5) 認知症サポート研修会

認知症について，全学年で研修を行った。介護施設の職員の方々から直接話しを聞き，認知症の人へどのような接し方をするとよいか等を学んだ。生徒たちの視野が広がり，心の成長がみられた。

3 成果

(1) あいさつは，互いに声を掛け合うことでよりよい人間関係を作る基盤となっている。標語を作成したことで，挨拶の大切さを更に意識することができた。

(2) 地域社会との関わりでは，郷土愛や地域の方々への感謝の気持ちを育むことができた。特に地域防災訓では，体験活動を通して，学年や世代を超えて協力し合ったり，お互いを思いやって行動する事の大切さを実感するととても貴重な経験になった。

II 今後の課題

日々の教育活動や学校行事を通して，よりよい人間関係の育成や，地域社会の一員としての自覚を再認識する実践に取り組むことができた。今後も，自尊感情・他尊意識を大切にする感情の育成を図るために，引き続き豊かな心情をもった生徒を育て，認め励まし合う人間関係の醸成を目指し，学校生活全体を通して取り組んでいきたい。

III 人権コーナー設置の様子

目に入りやすいよう，人が多く通る職員室前廊下に設置されている。定期的に掲示物を取り替え，人権は人と一緒に生活していく上で，とても身近なものであると意識できるように，様々な内容を取り入れて掲示している。



【人権コーナー①】



【人権コーナー②】